

授業科目 中枢神経系評価学Ⅰ

【担当教員名】 押木 利英子		対象学年	2	対象学科	理学
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○		◎	
【概要・一般目標：G10】 正常運動発達の原因と発達理論を理解し、理学療法を施行するために必要な運動発達の評価表を列挙し評価方法を学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 運動発達原理が理解できる。 2. 正常の運動発達の過程を具体的に想定できる。 3. 運動発達に対する理学療法評価項目を挙げることができる。 4. 評価項目を理解し具体的に想定できる。 5. 発達理論と反射テストの関係性を理解できる。 6. 反射テストの方法を理解し具体的に想定できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	発達とは 発達原理			1	講義、担当：押木 利英子
2	正常運動発達（粗大運動：0～12ヶ月）			2	講義、担当：押木 利英子
3	正常運動発達（粗大運動：12ヶ月～、手の発達、言語発達）			2	講義、担当：押木 利英子
4	各種発達テストの内容方法（1）			3,4	講義、担当：押木 利英子
5	各種発達テストの内容方法（2）			3,4	講義、担当：押木 利英子
6	発達理論 反射テストの内容と方法（1）			5,6	講義、担当：押木 利英子
7	反射テストの内容と方法（2）			5,6	講義、担当：押木 利英子
8	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		小児理学療法テキスト	田原弘幸、大城昌平、小塚直樹	南江堂	2010・4,000円＋税
		乳児の発達のみかたのエッセンス	吉岡 博	診断と治療社	2008・1,600円＋税
参考書		理学療法評価学	星 文彦、伊藤俊一、盆子原秀三	南江堂	2010・5,700円
その他の資料		必要に応じてプリント配布			
【評価方法】 出席状況、授業態度、小テスト、期末試験などを通して総合的に評価する。			【履修上の留意点】		